

各位

2002年6月14日

会社名 株式会社 高島屋
 代表者名 取締役社長 増倉一郎
 コード番号 8233

2002年5月度 高島屋営業報告

主要店舗および広域事業売上高前年増減率

	売上高増減率(%)	入店客数増減率(%)	営業日数増減数
東京店	1.6	0.0	±0日
横浜店	4.9	2.4	±0日
新宿店	4.8	7.9	+1日
関東9店計	1.2	0.3	
大阪店	3.7	7.0	±0日
京都店	0.0	3.4	±0日
関西9店計	1.5	1.7	
全店計	1.3	0.6	
法人事業	13.7		
通信販売事業	0.1		
広域事業(店外)計	27.3 (8.1)		
合計	3.7 (1.8)		

各店の売上高増減率は、店頭ベース。
 関東9店=東京、横浜、新宿、玉川、立川、大宮、柏、高崎、港南台
 関西9店=大阪、和歌山、京都、洛西、堺、泉北、岡山、岐阜、米子
 建装事業は、別会社化にともない2001年9月より広域事業から除く。
 ()内は前年数字より建装事業を除いた実質増減率。

商品別売上高前年増減率

紳士服・洋品	5.4
婦人服・洋品	3.9
子供服・洋品	0.6
その他の衣料品	5.0
衣料品計	4.0
身の回り品	1.4
家具	45.3
家電	16.0
その他の家庭用品	1.1
家庭用品計	20.1
食料品	0.5
食堂・喫茶	9.5
雑貨	1.1
サービス	2.0
その他	0.4
合計	3.7

概況

百貨店事業	<p>ゴールデンウィーク期間中は入店客数・売上共に堅調に推移したものの、月央以降は天候不順等の影響で主力の季節衣料品の動きが鈍化し、全店計では2ヵ月連続で前年を下回った。</p> <p>店舗別では、継続的な改装効果を発揮している新宿店や堺店(+15.9%)、柏店(+3.7%)等は好調に推移したものの、その他では主力の東京店、大阪店、横浜店が前年割れとなったのを始め、低調な結果に終わった。</p> <p>商品別では、婦人雑貨(+2.4%)、特選衣料雑貨(+1.8%)、食料品(+2.6%)が引き続き堅調な動きを見せたが、婦人服(3.9%)や紳士関連(紳士服:5.0%、紳士雑貨:2.0%)、子供服・ベビ用品(0.4%)等は低調であった。</p>
広域事業	<p>通信販売事業は新規の夏特別号カタログが奏効し前年を確保したものの、法人事業は大口受注の不調等の影響で不振に終わった。</p> <p>前年の建装事業売上分を除く実質ベースでは8.1%。</p>

以上